

I はじめに

1 計画策定の趣旨

日本人の平均寿命が80歳を超えた現代において、科学技術や情報化の進展により、私たちの生活環境は大きく変化し、便利で快適な生活が送れるようになりました。その反面、人間関係の希薄化、精神的ストレスの増大、運動機会の減少、体力や運動能力の低下など、健康上のさまざまな問題が顕在化しております。

こうした中で、スポーツを通じた健康づくりへの関心が高まっており、心身両面から健全な発達を促すためには、それぞれのライフステージにあったスポーツやレクリエーションを取り入れ、生涯にわたりスポーツに親しむことが必要であり、市民の誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境を整えることが、行政の重要な役割となっています。

国は、平成23年6月に「スポーツ基本法」を制定し、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であるとの考えに立った、新しい時代におけるスポーツの基本理念を提示しました。また、平成24年3月には、スポーツ基本法の理念を具現化し、今後の我が国のスポーツ政策の具体的な方向性を示す「スポーツ基本計画」を策定し、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国を実現していくための指針を示しました。

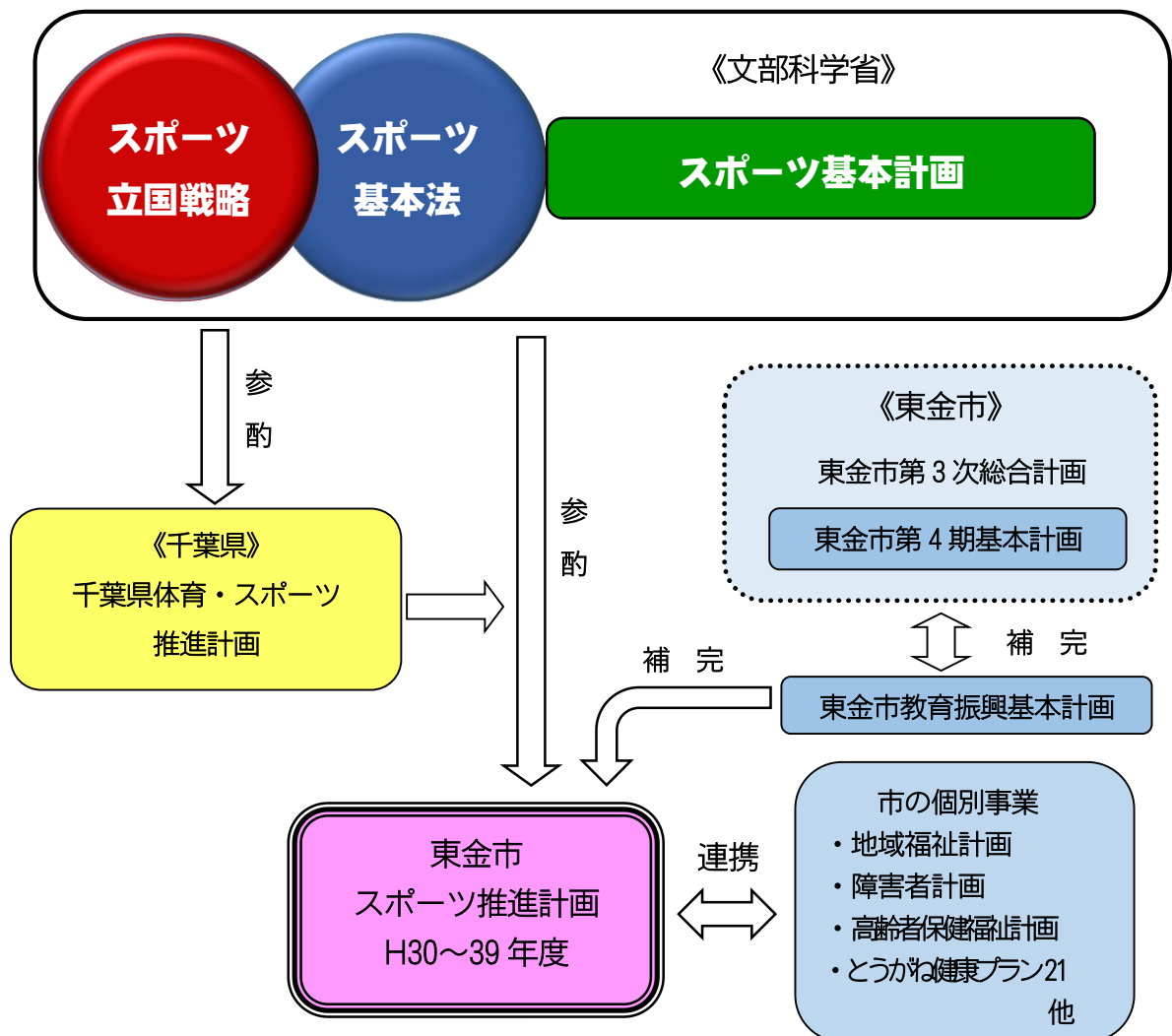
千葉県でも、国のスポーツ基本計画を参酌し、平成29年4月に「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」を策定しました。

こうした国や県の動向を踏まえ、「東金市スポーツ推進計画」は、一人でも多くの市民が、生涯にわたりスポーツに親しみ、「こころ豊かなまちづくり」に寄与することを目指し、本市がスポーツ・レクリエーションを推進するための基本的な方向性を示すものです。

2 計画の位置づけ

- ① この計画は、「スポーツ基本法第10条第1項」に基づき、本市がスポーツ・レクリエーション活動を推進するための基本的な方向性を示すものです。
- ② 文部科学省が平成24年3月に策定した「スポーツ基本計画」ならびに千葉県が平成29年4月に策定した「千葉県体育・スポーツ推進計画」の内容等を踏まえたものです。
- ③ 本市の上位計画である東金市第3次総合計画第4期基本計画の教育施策『こころ豊かなまちづくり』を補完し、「東金市教育振興基本計画」など関連する諸計画との整合を図りながら、本市のスポーツ推進のために必要な施策を総合的かつ計画的に推進するために策定したものです。

《計画の位置づけイメージ図》



3 計画の期間

本計画は、平成30年度（2018年度）から平成39年度（2027年度）までの10年間とします。ただし、事業の点検・評価は「P・D・C・Aサイクル」に基づき、毎年度行い、その結果、社会情勢の変化や事業の進捗状況等を勘案し、必要に応じて、適宜見直しをするものです。

※PDCA サイクル(PDCA cycle、plan-do-check-act)は、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階を繰り返すことで、仕事を継続的に改善する仕組み。



《関係法規との期間の関連図》

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	
国	スポーツ立国戦略 H23~H32											→						
	スポーツ基本計画 H24~H28							第2期スポーツ基本計画 H29~H33				→						
	スポーツ基本法																	
千葉県	第11次 体育・スポーツ推進計画 H24~H28							第12次 体育・スポーツ推進計画 H29~H33				→						
東金市	第3期基本計画 H23~H27							第4期基本計画 H28~H32				→						
												教育振興基本計画 H29~H33						
												スポーツ推進計画 H30~H39						



II 東金市のスポーツの現状

市民スポーツアンケートから見た現状

本計画を策定するにあたり、市民のスポーツに関する意識や実施状況を把握するために、市内に居住している18歳以上の方を対象として平成29年6月に「スポーツアンケート」を実施しました。

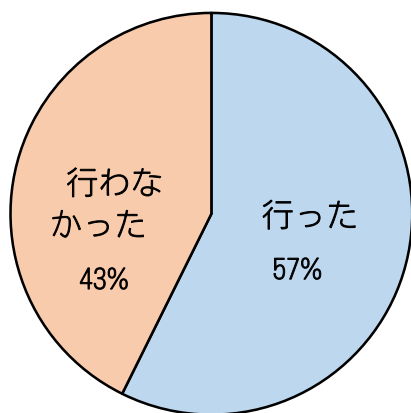
無作為に抽出した対象者1,500名に調査票を郵送したほか、市役所や地区公民館などに調査票を設置し、対象者であれば誰もがアンケートに参加できるように実施したところ、703名から回答がありました（P23～43参照）。

アンケート結果によると、この1年間に運動・スポーツを行った市民は403名（57%）で、行わなかった市民300名（43%）を上回りました。

実施頻度は、週に1～3回が37%、週に4～6回が18%、毎日が8%となっており、行った市民の63%が、週1回以上運動・スポーツを行っていることとなります。

この1年間に運動・スポーツを行いましたか。

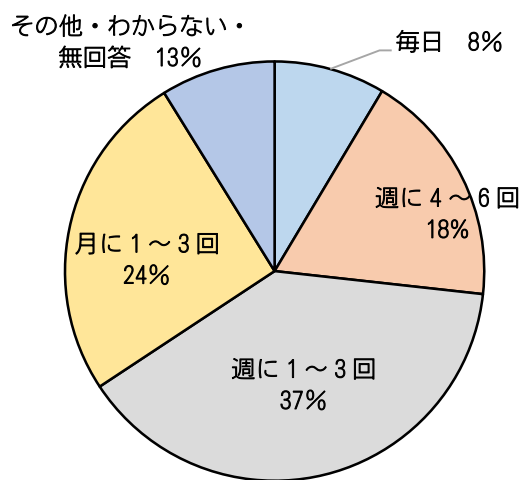
1	行った	403
2	行わなかった	300



年代別表	1	2	計
18・19歳	16	3	19
20歳代	44	20	64
30歳代	38	40	78
40歳代	58	43	101
50歳代	57	66	123
60歳代	96	73	169
70歳以上	94	55	149
回答者数	403	300	703
%	57%	43%	100%

どれくらいの割合でスポーツや運動をしますか。

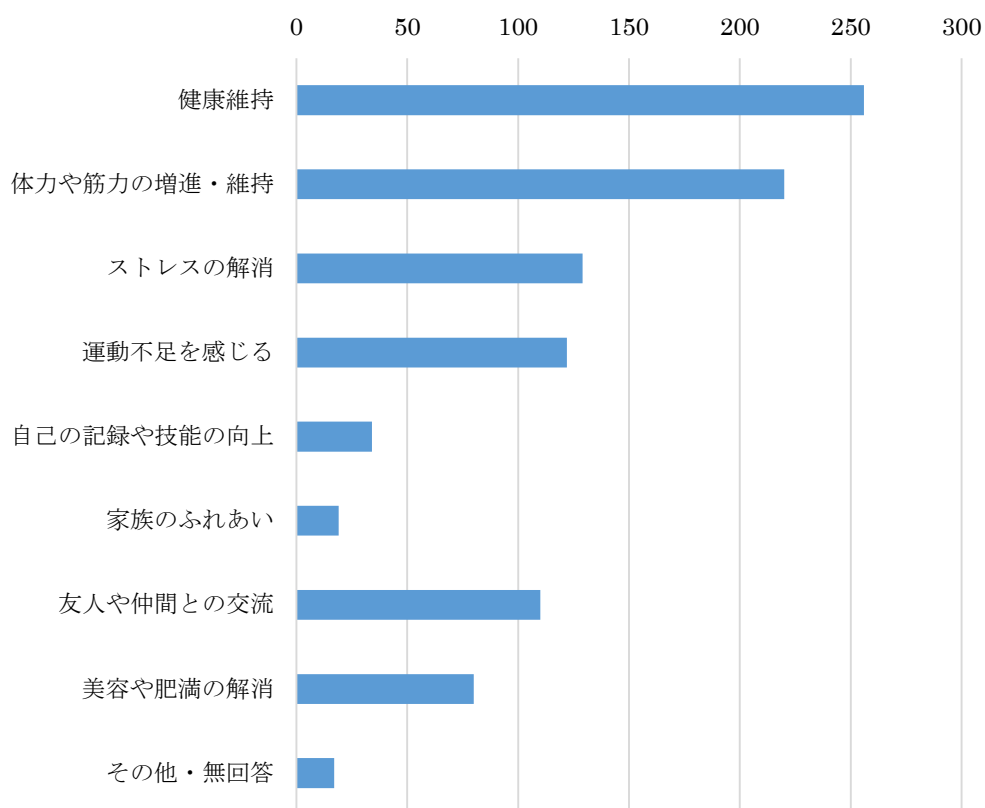
1	毎日	33
2	週に4～6回	70
3	週に1～3回	150
4	月に1～3回	98
5	その他・わからない・無回答	52



運動・スポーツをする理由としては、「健康維持のため」、「体力や筋力の増進・維持のため」、「ストレスの解消」、「運動不足を感じるから」が大半を占めていますが、「友人や仲間との交流として」を目的に、運動・スポーツを行っている回答も多くありました。

運動・スポーツを行う理由は何ですか。(3つまで回答可)

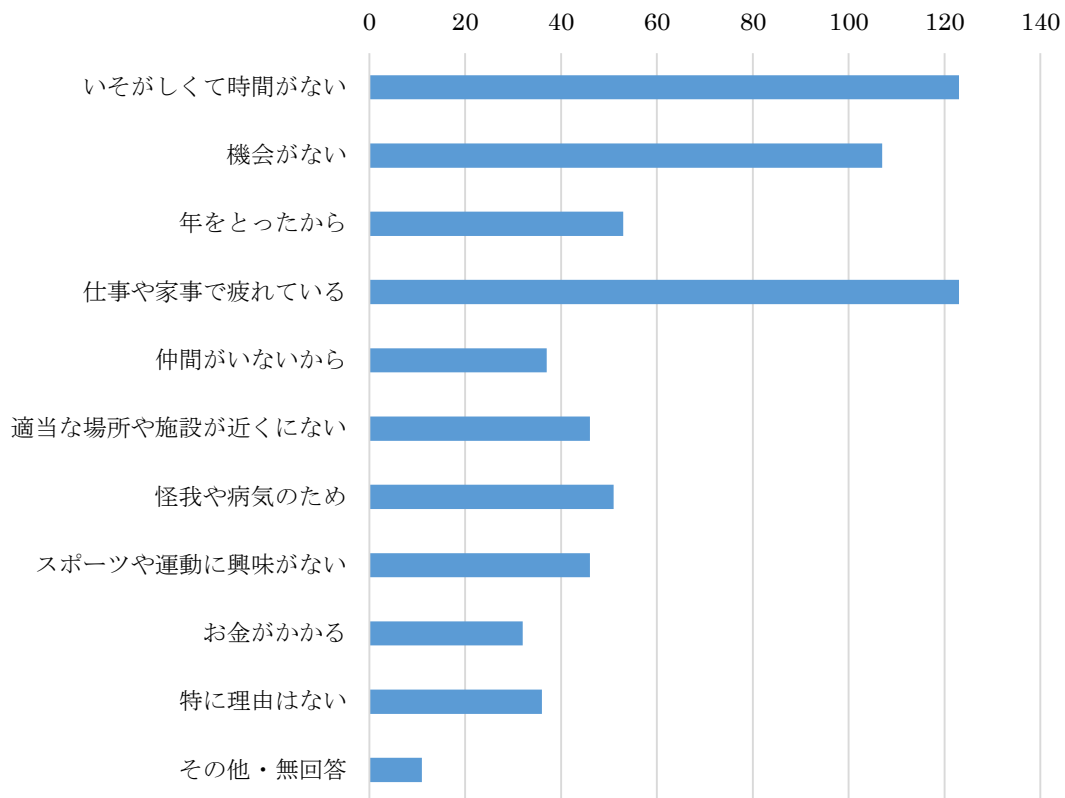
1	健康維持のため	256
2	体力や筋力の増進・維持のため	220
3	ストレスの解消	129
4	運動不足を感じるから	122
5	自己の記録や技能の向上のため	34
6	家族のふれあいとして	19
7	友人や仲間との交流として	110
8	美容や肥満の解消のため	80
9	その他・わからない・無回答	17



一方で、運動・スポーツを行わなかった理由としては、「いそがしくて時間がない」、「仕事や家事で疲れている」が、行わなかった理由全体の37%を占めています。

スポーツを行わなかった理由は何ですか。(3つまで回答可)

1	いそがしくて時間がない	123
2	機会がない	107
3	年をとったから	53
4	仕事や家事で疲れている	123
5	仲間がないから	37
6	適当な場所や施設が近くにない	46
7	怪我や病気のため	51
8	スポーツや運動に興味がない	46
9	お金がかかる	32
10	特に理由はない	36
11	その他・無回答	11



今後、行ってみたい運動・スポーツ種目については、「ウォーキング」、「水泳」、「エアロビクス・ヨガ」が多く、個人で気軽にできるものが好まれる傾向にあります。

今後行ってみたい運動・スポーツはありますか。(3つまで回答可)

(上位10種目)

順位	種目	人数	順位	種目	人数
1	ウォーキング	206	6	登山	84
2	水泳	155	7	釣り	79
3	エアロビクス・ヨガ	152	8	体操	75
4	自転車・サイクリング	123	9	バドミントン	72
5	ウエイトトレーニング	92	10	テニス・ソフトテニス 卓球	66

Ⅲ 目指すべき方向

1 基本理念

国のスポーツ基本計画では「スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」という定義のもと、青少年が健全に育つ社会、人々が協働で結ばれた地域社会、健康で活力に満ちた長寿社会を作ることが提唱されています。

東金市のスポーツ推進計画においては、市民一人ひとりが生涯にわたり、年齢、性別、職業、障がい等の有無を問わず、それぞれのライフステージで、誰もが様々なかたちでスポーツに関わることができる環境づくりを目指し、心身ともに健康で豊かなスポーツライフの実現に向け、次のような基本理念を掲げます。



2 計画の目指す基本目標

基本理念を実現するため、次の3つの基本目標を設定します。

する

基本目標1

ライフステージに応じたスポーツ・レクリエーションの推進

スポーツ・レクリエーションとの様々な関わり方の中で、自分自身が運動を「する」ことは、健康・体力を維持・増進する上で大切な行動であるとともに、生きがいづくりや社会参加のきっかけづくりにも寄与するものであります。

子ども、若年層、働き盛り世代、子育て世代、高齢者や障がいのある方など様々な世代や立場の市民に、いつでも、どこでも、いつまでも、それぞれの希望するレベル・内容のスポーツの機会を提供していくとともに、スポーツに取り組みやすい環境づくりを目指します。

みる

基本目標2

2020東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進

オリンピック・パラリンピックが東京で開催されることにより、スポーツを身近に「みる」ことで、幅広い世代の方がスポーツの楽しさや感動を味わい、興味・関心を持つことは、スポーツの裾野を広げることにつながり、市民のスポーツへの取り組みやイベントへの参加意欲の向上につながるものであります。

オリンピック・パラリンピックを契機とし、トップアスリートやチームを招いて市民と交流する機会を設けたり、誰でも始めることのできるニュースポーツを紹介したりしながら、スポーツ情報を発信し、市のスポーツ人口の拡大を目指します。

ささえる

基本目標3

スポーツ体制の支援・充実の促進

スポーツを継続的かつ効果的に実践するには、それを「ささえる」スポーツ体制（団体・指導者・施設等）の支援や充実が重要となります。

市民のスポーツの取り組みを支えるスポーツ団体への支援やスポーツリーダーとなる指導者・ボランティア等の確保と育成を重点的に進めてまいります。

また、市民が安全・安心にスポーツを楽しめる体育施設の整備、さらには学校施設開放の充実等を図り、気軽にスポーツが楽しめる環境整備の推進を目指します。

3 施策の体系

施策の体系図

基本理念

基本目標

重点施策

